

アメリカ合衆国最北端の州、アラスカ。手つかずの大自然が多く残っていることから「ラスト・フロンティア」と言われる。日本

の国土の四倍の面積を誇る極北の地は、ぜひ訪ねてみたい所の一つであつた。

最近はどこに行くかを選ぶ場合、妻の健康状態を考えて「楽な旅」が第一条件。行き

とアラスカ鉄道・九日福岡に帰るというのが今回のコースだ。

世界地図を見ると、間の旅である。福岡空港から直行チケット便でアラスカ最大の都市、アンカレッジへ

スカ鉄道で南下し、不凍港のウイックティア港へ行く。ここが超大型客船によるクルーズの起点で、世界遺産のグレイシャー・ベイ、州都

ジュー、ケチカンなどに寄港し、カナダ

のバンクーバーから再び直行チケット便で

日本からはアラスカへの直行定期便はな

いざ、アンカレッジへ （アラスカクルーズ①）

アンカレッジはハワイより遠くに見える。

我々が見る世界地図のほとんどはメルカトル

図法で表記され

る。確かに高校時代に習

ったと思うが、円球状

の地球を平面に表す

と、高緯度になるほど

東西に長く表記され

る。つまり北緯六十度

より北にある高緯度の

アラスカは、平面地図

では日本から実際より

遠くに表記されている

のだ。

アラスカはハワイよ

り遠いと思っている人

が多いと思うが、ハワ

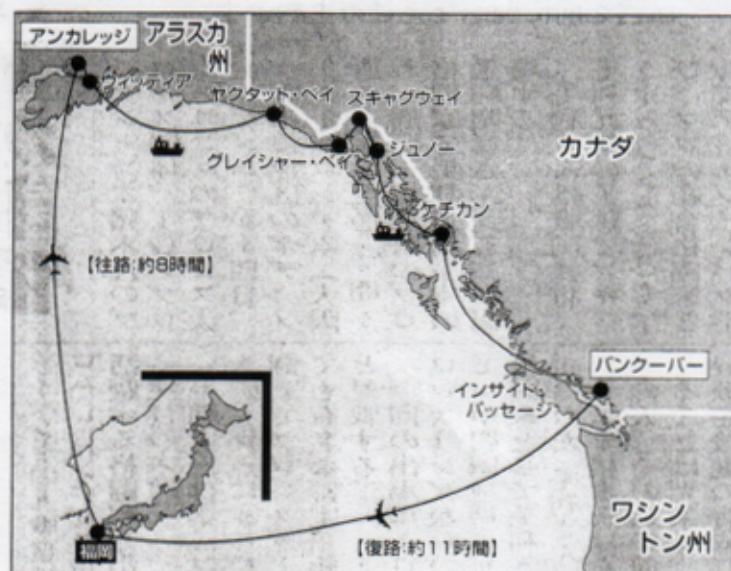
イよりも日本に近い。

アラスカクルーズ



藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

305



今回の旅のコース

アラスカ鉄道駅まで車椅子を押してくれた男性

く、乗り継ぎ時間を含めると二十時間を超える。しかし直行便なら約八時間。これが今回の旅を選んだ第一の理由だつた。

第二の理由は同じ宿

に、行きより二時間余り多くかかるが、乗り換えなしというのは何といつても楽だ。

唯一つ心配だったのは、アンカレッジ空港からアラスカ鉄道に乗るまで十分ぐらい歩く

ということだった。空港内の移動は前もって車椅子をお願いしておけばいいのだが、空港

までのアラスカ鉄道の駅ま

で、着くと、アラスカ鉄道の駅は同じ敷地内にあり、上手な日本語を話す男性が車椅子を持つ

旅行社の方から「車椅子の手配はしておきましたが、それが駄目だったらゆっくり歩いて」と言われ、多少不安を残して旅立った。

アンカレッジ空港に

が、最近は体にハンディキャップがあるても配慮が行き届いており、同じ料金を払っている健常者の方に申し訳なく思

うぐらい、気配りが行き届いている。

空港から鉄道の駅まで当然のこととのように笑顔で車椅子を押してくれた。恵み豊かな旅になるかどうかは、人との出会いによって決まる」と痛感する。

